

組織目標評価報告書（令和2年度）

部局名： 情報統括センター

部局長名： 村上昌己

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)	
①教育領域	目標に関連する 年度計画の番号	教育領域の目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
①全学の情報リテラシー教育と情報セキュリティ教育の質向上に取り組む。 ②教育におけるICT環境を更に充実させ、円滑な教育へのICT活用を支援する。 ③利用者相談室における学生サポート(外国人留学生含む)を充実させる。	90-1	①当センターが主導して、全新生を対象として情報リテラシー教育を実施した。特に近年重視されている情報セキュリティ対応能力の向上を図った。 また、情報セキュリティe-Learning、自己点検を実施するとともに、システム管理者、システム利用者及び役員・部局長向けのセキュリティセミナーを開催した。 ②新型コロナウイルス感染拡大防止対策としての遠隔授業をスムーズに実施するため、急遽新生向けに本学の基本的な情報サービス等のマニュアルを作成し、新入生のオリエンテーションで配布するとともに、Microsoft Office365を利用した遠隔授業の実施のためのマニュアル作成やアカウントの整理等の支援を行った。 全学講義室の無線LANエリアの拡充及び安定した接続環境実現のため、学務部が進めた101台の無線アクセスポイント増設及びアクセスポイントを管理するコントローラ2台増設の調達を支援した。また、GIGAスクール対応のため附属学校園に2021年度から1,200台の学習用端末が増えることに備えて、38台のアクセスポイント及び認証対応のハブ3台増設の調達支援を行った。 ③コロナ渦において利用者の遠隔サポートを実現するため、ホームページのコンテンツを見直し、利用者が必要とする情報が探しやすいよう整理を行うとともに、ホームページからのスムーズな問合せを可能とするため、FAQや入力フォームの整理や入力された問合せデータの進捗を管理するシステムを導入し、迅速な利用者対応を行った。また、問い合わせの入力フォームについては、英語版を作成し、留学生からの質問についてもスムーズに対応できるよう、英語版問い合わせフォームを作成した。
②研究領域	目標に関連する 年度計画の番号	研究領域の目標の達成状況
①情報統括センター業務に関連する研究を推進する。 ②科研費等、外部資金への応募を促進する。	特になし	①NICTとのサイバー攻撃に関する共同研究により、不正通信の検知技術及び可視化技術の発展に貢献した。 ②科研費応募件数：1件
③社会貢献(診療を含む)領域	目標に関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域の目標の達成状況
①放送大学岡山学習センター等の非常勤講師を務めることにより地域貢献する。 ②大学共同利用機関法人等の委員を務めることにより社会貢献する。	特になし	①放送大学岡山学習センターにおいて、「認証技術入門」を講義する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。 ②国立情報学研究所：学術認証運営委員会委員 大学ICT推進協議会：認証基盤部会運営委員 岡山県：岡山情報ハイウェイ接続検討委員会委員
④管理運営領域	目標に関連する 年度計画の番号	管理運営領域の目標の達成状況
⑤センター・機構等業務に記載	-	
⑤センター・機構等業務	目標に関連する 年度計画の番号	管理運営領域の目標の達成状況
①多様な学修ニーズと教育のグローバル化に対応し、学術情報・設備・環境を活用した学修・教育体制を強化する。 ②教育研究活動を支援するため、安全安心なICT基盤サービス及びネットワーク基盤を提供する。 ③情報セキュリティを確保するため、情報セキュリティ対策への取組を継続する。 ④学内外のデータを収集し、分析を行うIR/IE室の機能強化を支援する。	45-1 90-1	①新型コロナウイルス感染防止対策のため、遠隔授業及び自主学習を主体としたオンライン授業実現に向けて、MicrosoftのWeb会議(Teams)及び動画配信クラウドサービス(Stream)の利用手順を教職員へ周知して安心・安全に開講する新しい授業形態への適応に貢献した。 ②BCPバックアップの処理時間の短縮を図るため、事務用ファイルサーバのデータ保存期間を見直し、約30%のデータ削減を行った。また、バックアップ以外のBCP対策として、令和2年8月に教職員用メールサーバを学外データセンターへ設置し、本学被災時にもメールサービスが継続可能な基盤を構築した。さらに、令和4年4月に更新予定の「教育・研究支援情報システム」について、学外クラウドを利用するための認証基盤やその他のサーバ、データ等を遠隔地に設置することで、本学が被災した際にも業務継続が可能となる情報基盤の実現に向け、検討を進めている。 クラウドサービスを安心・安全に利用するための取り組みとして、クラウド上で稼働するサーバ70台について、11月末までに最新OSへのバージョンアップを実施した。 ③学外からのメールの不正使用を防止するため、8月に海外から直接のメール利用を禁止するとともに、12月には国内においても学外からの直接メール利用の制限を実施した。 また、学外からの学内ネットワーク接続については、多要素認証を経たより安全な接続(VPN)による利用方法に切り替えるとともに、同時接続数を1,200に増強した。 セキュリティ意識向上のための取り組みとして、引き続き情報セキュリティe-Learningを実施した。今年度から、未受講者に対して学内ネットワーク使用停止の措置を講じた結果、最終的な受講率は100%となった。また、本学の情報セキュリティに関する状況を各責任者が共有し、対策を実効あるものとするために、CISO、情報統括センター長、セキュリティ担当者が各部局を巡回し部局長と面談を行うとともに、センター長を講師に、役員、部局長及び部課長を対象とした情報セキュリティセミナーを10月21日に実施した。 外部目録のコンサルティングを導入してセキュリティ対策の強化を進めた。情報セキュリティインシデント発生時の対応体制を強化するため、関連する学情報セキュリティポリシー実施規程・実施手順を改正するとともに、3月に学長、CISO、関係理事及び関係部局長を含めたインシデント対応訓練を実施した。さらに、実効性のあるセキュリティ監査を実現するため、情報統括センター長を「情報セキュリティ監査責任者」として、法人監査室と協力して情報セキュリティ監査体制を構築した。 ④データの収集について学務システムが更新になったことから、データ収集方法の見直し等を行った。また、IR/IE室の室員として統合報告書の作成や振り返りについての検討を行った。